

令和6年3月16日 福井・敦賀開業

北陸新幹線

北陸新幹線(金沢・敦賀間)の概要

- 最高速度 260km/h
- 整備期間 2012～2023年度末
- 総工事費 約1兆6,779億円
(うち、県内事業費 約1兆1,200億円)
- 工事延長 114.6km
(うち、県内区間 74.4km)

県内の主な構造物

- トンネル
 - 柿原トンネル (2.5km)
 - 第2福井トンネル (3.5km)
 - 新北陸トンネル (19.8km)
- 橋りょう
 - 第2竹田川橋りょう (311m)
 - 九頭竜川橋りょう (414m)
 - 日野川橋りょう (310m)



県内の北陸新幹線4駅

芦原温泉駅 (あわら市)



デザインコンセプト
「あわらの大地に
わいで ぜい
湧き出る贅の駅」

福井駅 (福井市)



デザインコンセプト
「太古から未来へ
～悠久の歴史と
自然がみえる駅～」

越前たけふ駅 (越前市)



デザインコンセプト
「伝統・文化を
未来につなぐ
シンボルとしての駅」

敦賀駅 (敦賀市)



デザインコンセプト
「空にうかぶ
～自然に囲まれ、
港を望む駅～」



福井県北陸新幹線建設促進同盟会
事務局／福井県未来創造部
新幹線・交通まちづくり局新幹線建設推進課



2023.11 作成



福井県

ふくいの新時代を ひらく北陸新幹線

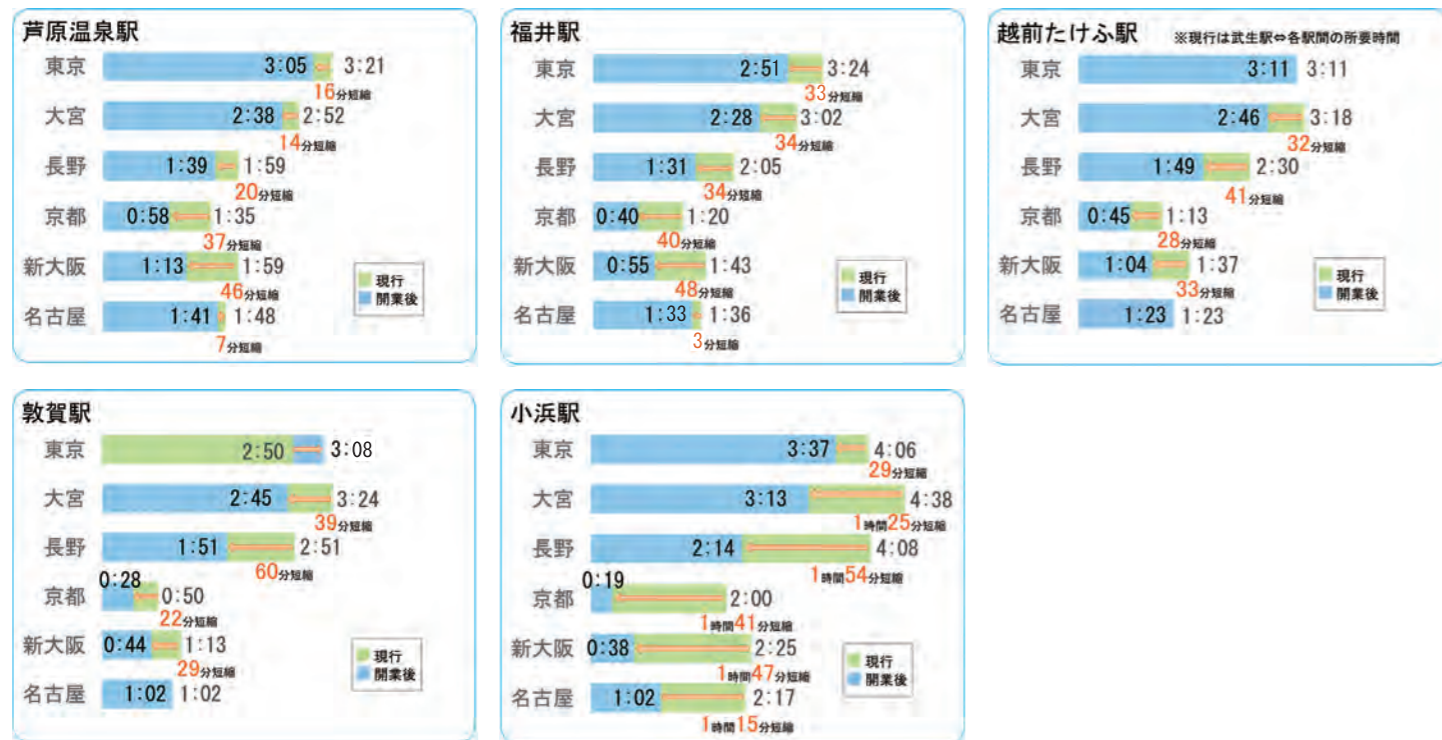
変わる生活、広がるビジネス

新幹線開業により、東京や大阪をはじめ沿線地域との移動時間が短縮し、相互に便利になります。離れて暮らす家族との往来や帰省等が容易になります。新しい旅行先が選択でき、滞在時間も拡大するなど、観光やビジネスの可能性が広がります。

交流人口の拡大と大きな経済効果

新幹線の整備により、交流人口が拡大します。それに伴い、観光等の消費が増加するなど、経済波及効果が発生します。

県内各駅から各都市間の所要時間（全線開業後）



※現行の所要時間は、R5.3.18改正ダイヤの最速値を使用
 ※全線開業後の所要時間は、国土交通省調査(H29.3)に基づく最速値および県試算値(乗換え時間10分)
 ※福井⇄東京、福井⇄名古屋、敦賀⇄東京の所要時間は、JR公表値(R5.8)に基づく
 ※所要時間は想定値であり、開業後の運行ダイヤはJRが決定する

- 【現行】
- ①～③の利用経路は金沢経由、北陸新幹線利用
 - ①芦原温泉 ⇄ 東京、大宮、長野
 - ②福井、武生 ⇄ 大宮、長野
 - ③敦賀、小浜 ⇄ 長野
 - ・芦原温泉、福井、武生、敦賀、小浜 ⇄ 京都、新大阪は特急サンダーバード利用
 - ※上記の利用経路以外は米原経由、東海道新幹線(ひかり)利用

- 【全線開業後】
- ・北陸新幹線利用
 - ※敦賀 ⇄ 名古屋は米原経由、東海道新幹線(ひかり)利用
 - ※小浜 ⇄ 名古屋は京都経由、東海道新幹線(のぞみ)利用

大環状広域観光ルートを形成

北陸新幹線は東海道新幹線などと大環状の広域観光ルートを形成し、観光立国の実現に寄与します。



新幹線開業による経済波及効果

福井・敦賀開業
 県内への効果
 約 **309** 億円/年

出典：日本政策投資銀行北陸支店調査
 (令和2年2月)

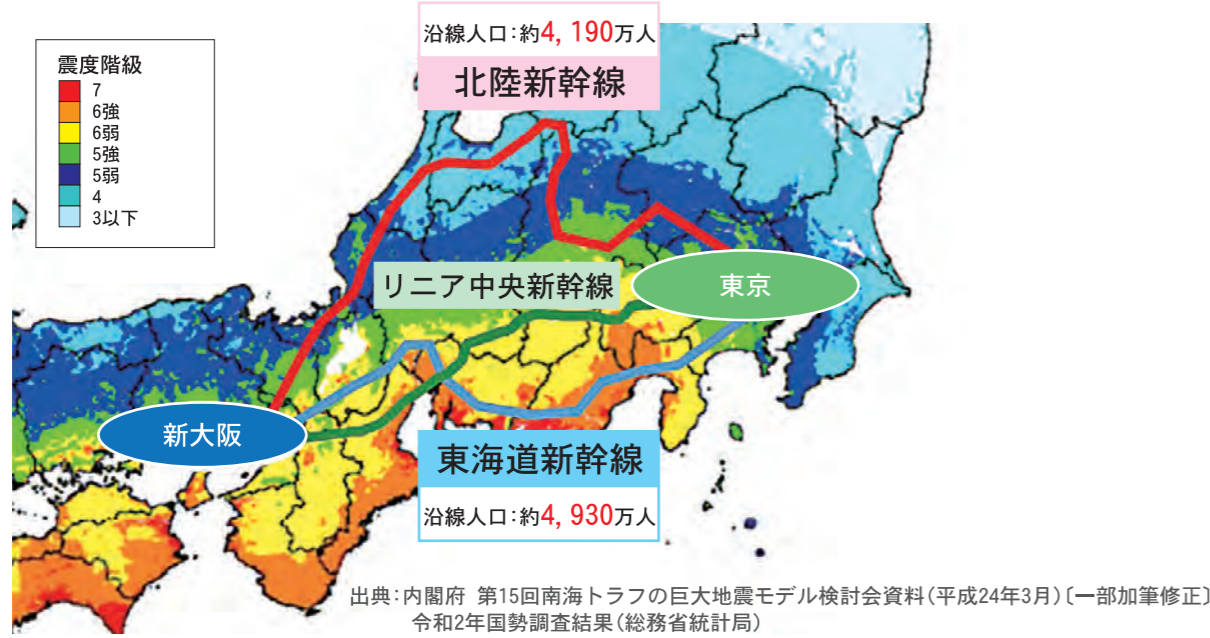
大阪までの全線開業
 全国への効果
 約 **2,700** 億円/年

出典：関西経済連合会・北陸経済連合会・大阪商工会議所調査
 (令和元年10月)

複数ルートによる災害に強い国土

北陸新幹線は、日本海国土軸を形成し、南海トラフ地震等の際に東海道新幹線の代替補完機能を果たす災害に強い強靱な国土づくりに必要不可欠な国家プロジェクトです。

◆南海トラフ地震の震度分布と各新幹線のルート



安全で安心、環境にやさしい交通機関

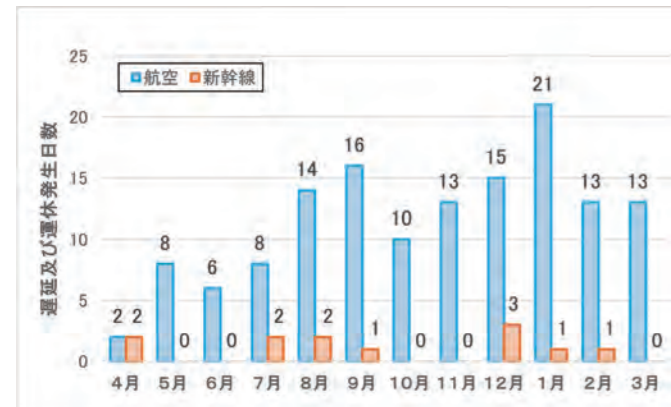
新幹線は、多くの乗客を安全かつ安定的に運べる交通機関です。東海道新幹線の開業以来、乗客の死亡事故はゼロであり、大雨や大雪による輸送障害にも強く、定時性に優れています。

また、CO₂の排出量も少なく、環境にやさしい交通機関です。

◆遅延や運休の発生状況(平成28年度)

新幹線は、天候や災害の影響を受けにくい安定した交通機関です。平成30年の大雪の際も北陸新幹線はほぼ平常運行しました。

東京・金沢間の月別遅延及び運休発生日数(平成28年度)

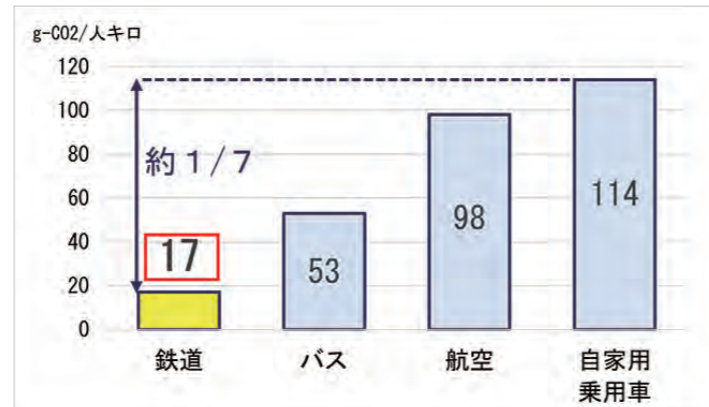


出典:「北陸新幹線(長野・金沢間)～事後評価の概要～」(令和2年3月 鉄道建設・運輸施設整備支援機構)

◆1人を1km運ぶのに排出するCO₂(令和元年度)

新幹線をはじめとする鉄道は、輸送量あたりのCO₂排出量が自動車の約1/7であり、環境に優しい交通機関です。

移動手段別のCO₂排出量(旅客)



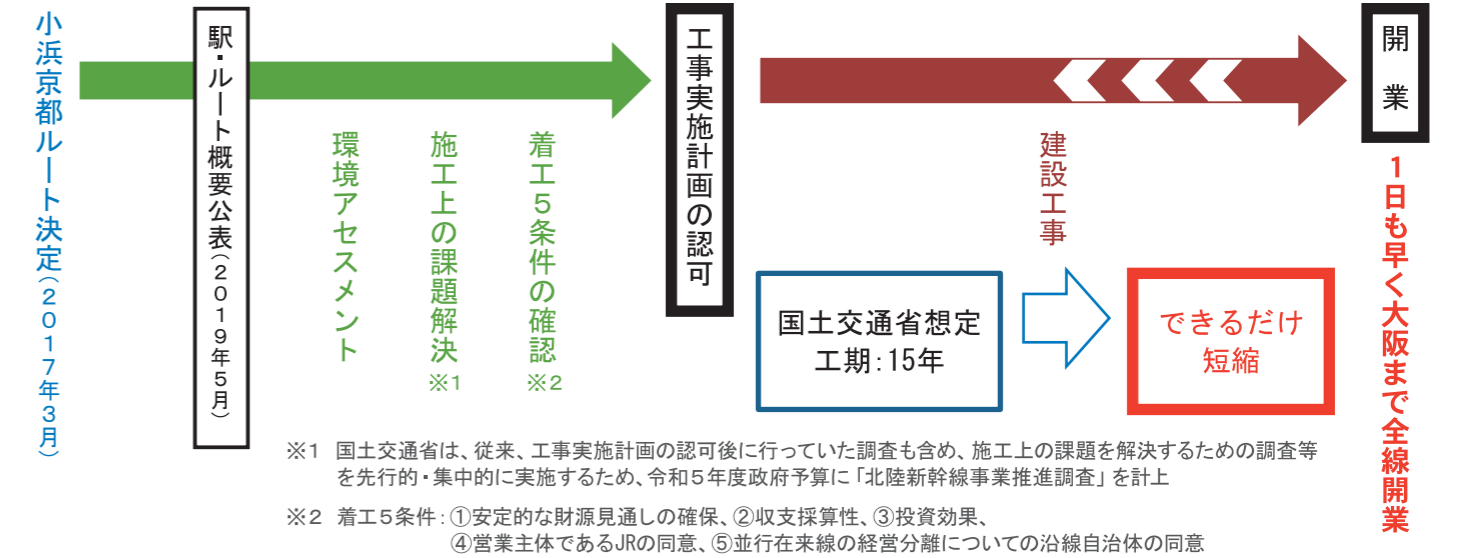
出典:令和元年度温室効果ガス排出量(確報値)について(令和3年4月 環境省)

新大阪までの早期全線開業を

平成29年(2017年)3月、北陸新幹線の敦賀・新大阪間を小浜京都ルート〔敦賀駅-小浜市(東小浜)附近-京都駅-京田辺市(松井山手)附近-新大阪駅〕により整備することが決定されました。

環境アセスメントを丁寧かつ迅速に進めるとともに、施工上の課題や着工5条件を早期に解決し、1日も早い全線開業を実現するよう、政府・与党に求めています。

◆全線開業までのスケジュール



北陸本線(並行在来線)は地域鉄道として存続

新幹線福井・敦賀開業に伴い、JRから経営が分離される北陸本線の敦賀駅～大聖寺駅間は地域の第三セクター会社である「株式会社ハピラインふくい」によって運営されます。現在、同社において、令和3年10月に決定した経営計画に基づき、想定ダイヤの検討など、具体的な開業準備を進めています。

◆経営計画の概要

運行計画

項目	現行	開業後
運行本数	102本	126本(24本の増)
増便24本のうち8本は		快速列車
快速列車	運行なし	
パターンダイヤ化		

運賃水準

概ね近隣県並みの運賃水準にします。(対JR運賃比)

券種	開業1～5年目(激変緩和)	6～11年目
普通	1.15倍	1.20倍
通勤定期	1.15倍	1.20倍
通学定期	1.05倍	1.05倍

利用促進策

○利用者数の目標

- 1日の利用者数目標を2万人とします。
- 利用者数を開業年度から11年間(R6～R16)維持します。

○具体的な利用促進策

- 新駅の設置、P&R駐車場や駐輪場の拡充

新駅:新富山口駅(あいの風とやま鉄道)

P&R駐車場:水落駅(福井鉄道)

- 駅舎内の空きスペースの活用
- 沿線市町や地域鉄道と連携したイベントの実施
- 観光・イベント列車の運行
- サポーターズクラブの設置 など

北陸新幹線(県内区間)の経緯

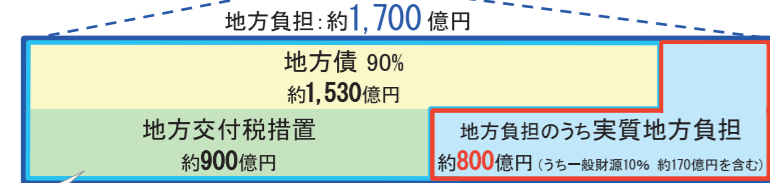
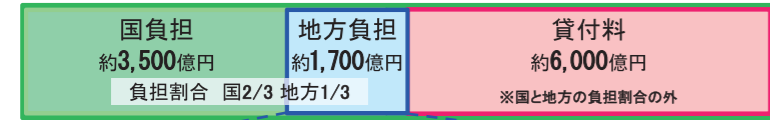
- 昭和48年11月 整備計画決定および建設の指示
- 昭和60年1月 小松・芦原温泉間環境影響評価実施のための駅・ルート概要公表
- 昭和62年2月 芦原温泉・南越間環境影響評価実施のための駅・ルート概要公表
- 平成8年3月 小松・南越間の工事実施計画認可申請
- 南越・敦賀間環境影響評価実施のための駅・ルート概要公表
- 平成14年1月 南越・敦賀間の環境影響評価書の公告
- 平成16年12月 政府・与党申合せによる新たな財源スキーム(既設新幹線譲渡収入の前倒し活用等)および着工区間の決定(富山・金沢車両基地間、福井駅部等)
- 平成17年4月 富山・金沢間(フル規格)、福井駅部認可
- 平成17年12月 南越・敦賀間の工事実施計画認可申請
- 平成21年2月 福井駅部完成
- 平成23年12月 政府・与党確認事項
(白山総合車両基地・敦賀間の想定完成・開業時期:長野・白山総合車両基地間の開業から概ね10年強後)
- 平成24年6月 金沢・敦賀間(フル規格)認可
- 平成27年1月 政府・与党申合せ
金沢・敦賀間の開業時期を3年前倒しし、平成34年度末の完成・開業を目指す
与党整備新幹線建設推進PT会合
敦賀・大阪間のルート(敦賀駅-小浜市(東小浜)附近-京都駅-新大阪駅)に決定
- 平成28年12月 与党整備新幹線建設推進PT会合
京都・新大阪間を南回りルート(京田辺市(松井山手)附近経由)とし、敦賀・大阪間の全ルートが決定
- 令和元年5月 敦賀・新大阪間環境影響評価実施のための駅・ルート概要公表
- 令和2年12月 与党整備新幹線建設推進PT会合
金沢・敦賀間の工期が1年遅延、令和5年度末の完成・開業に向けて最大限努力
- 令和4年12月 令和5年度政府予算案に「北陸新幹線事業推進調査」を計上
(敦賀・新大阪間)
- 令和6年3月 金沢・敦賀間開業予定

新幹線の整備スキーム、地方負担(想定)

新幹線の建設費は、JRが支払う貸付料を充てた後、国と地方が2対1で負担します。
また、地方負担分の90%に地方債が充当可能であり、その元利償還金の50%~70% ※ に対し国から地方交付税が交付されます。このため、実質的な地方負担は、さらに軽減されることになります。
※財政状況によって交付される率は変動

◆ 建設費の負担イメージ(金沢・敦賀間:総事業費約1兆6,779億円)

福井県負担対象事業費:約1兆1,200億円



- 地方負担分の90%に地方債が充当可能
- その元利償還金の50~70%に国が地方交付税措置

前提条件

- 地方負担額は令和4年度財源スキーム(R5.3現在)に基づく試算
- 県内区間に充てられる貸付料は、建設中区間の総事業費に対する貸付料の割合(総額の約50%)をもとに試算
- 金額は100億円単位で端数処理

令和6年(2024年)3月16日開業予定 平成27年(2015年)3月14日開業
金沢・敦賀間 長野・金沢間

平成28年(2016年)3月
新函館北斗まで開業

平成23年(2011年)3月
鹿児島中央まで開業



凡例

- 開業区間
- 令和6年3月16日開業予定区間
- 未着工(整備計画)

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分1日本IIを複製したものである。(承認番号 平23北複、第20号)」